

銘文からみた春秋戰國時代華中地域における青銅器生産 ——「作器者」銘の分析を中心に——

丹羽 崇史

1. はじめに

春秋戰國時代は、青銅器生産において、商代以來の職業氏族による生産組織が解體し、官僚組織や民間による生産組織が成立した時期と評價されるとともに（佐藤 1962）、春秋中期以降、舊來の身分秩序の解體により、商人や手工業者を含めた「新興の士階層」が臺頭し、彼らによって新たな器形、紋様を有する青銅器が求められたと理解されてきた（江村 2000）。このように青銅器の生産・流通に關する研究は、當該期の社會的な變化の本質にも迫る可能性を持っていると考える。

先行研究では、銘文記載内容の検討から生産管理機構の復元が試みられてきたほか（佐藤 1962, 郝 1972, 黄 1974, 西村 1983, 佐原 1984, 李 1985, 江村 1986・2000, 楊 2003, 下田 2004・2008）、晉・齊・楚・徐などで他國の青銅器が生産された状況や移動工人の存在なども指摘されている（佐藤 1962）。さらに、戰國各國の「府」で青銅禮器の製造・管理が、「庫」で武器の製造・管理されていたこと（佐原 1984）、また三晉地域では縣における兵器鑄造と貨幣發行に中央政府や郡が管轄していないあり方が存在したこと（江村 1986）なども明らかにされてきた。考古學の側からはとくに技術的側面に着目し、「單字模鑄造法」を手掛かりに春秋末から戰國前期の曾國における武器生産體制の變遷（吉開 1994・1996）や晉の侯馬鑄銅遺跡の生産品の可能性を持つ青銅器の廣域的な分布状況（吉開 2008）も検討されている。

筆者はこれまで、春秋戦国時代における青銅器の生産・流通の實態を明らかにするため、青銅器の製作痕跡や形態を中心とした屬性の考古學的な検討を行ってきた。長江流域を中心とした華中地域では、廣域にわたって様式圏が成立したと評價される所謂「楚系」青銅器（劉 1995）を中心に、多数の青銅器が出土しているが、従来これらの青銅器の生産体制のあり方は明らかではなかった。筆者は青銅器に残る複数の製作痕跡の比較検討から、戦国期の青銅器生産において複数の技術的な系統があることを指摘した。そのうえで、楚の中心地域である江漢地域以外にも、各地において在地的な製作者集団が存在していた可能性が高いとした（丹羽 2006）。また、江漢地域においても複数の製作者集団が存在し、製作者集団間においても技術的な交流が存在していたことを指摘した（丹羽 2008a・2009）。

しかしながら、青銅器の製作痕跡・形態・紋様などの検討とともに銘文など出土文字史料との有機的な関連性を明らかにすることで、青銅器の生産体制や流通形態の實態に考古學的に迫ることが可能であると考え。そこで本稿では、春秋戦国時代の青銅器銘文の分析から青銅器の生産主體者の變遷について検討を行う。

2. 方法の検討と問題の所在

青銅器銘文から青銅器生産・流通にアプローチする場合、これまでの先行研究を方法論的に整理すると、主に以下の2つの方法があると考え。

- a) 個々の銘文記載内容の検討から、生産組織像を構築する方法
 - b) 銘文のなかの單獨・複数の要素を抽出し、地域間・時間軸上の比較検討を行う方法
- a) の方法によるものとして、前節で述べたように、青銅器銘文や文獻史料に見られる縣名、機構名、人名などを検討し、武器を中心とした青銅器の生産・管理機構について考察する研究が多く行われている（佐藤 1962, 郝 1972, 黄 1974, 西村 1983, 佐原 1984, 李 1985, 江村 1986・2000, 楊 2003, 下田 2004・2008）。

また、西周時代の例であるが、松丸道雄氏は青銅器銘文の内容を吟味し、

銘文の起草者、生産工房の経営者（西周王朝）と製作依頼者の関係を考察している（松丸 1980）。

b) の方法によるもの¹として、江村治樹氏は、青銅器編年の基づき、春秋時代の銘文史料の書式・日付・作器者・器名・作器対象・願望用語の地域間・時間軸上の比較を行い、春秋中期以降の青銅器の形態・紋様・技術の變化と銘文の變化が連動することを明らかにした（江村 1988・1989・1991・2000）。張昌平氏は、「擇其吉金」という金文辭例の時間的・空間的展開過程の検討し、西周青銅器の銘文形式が所謂「楚系」青銅器の銘文に採擇される過程を明らかにした（張 2006・2009）。また、所謂「曾國」青銅器の型式學的な要素とともに、銘文についても周式青銅器と比較検討し、文字の反書、漏字や配列の誤りや内容のパターン化などから、諸侯國の銘文製作レベルの限界と評價した（張 2009）。石谷愼氏も「曾國」青銅器の紋様表現・配置と「作器者」銘との對應關係を検討し、製作工人群が2系統であるとした（石谷 2016）。

さらに漢代から三國時代の研究例であるが、上野祥史氏は、青銅鏡の單位紋様と作鏡者銘から、特定製作者集團による製作を想定した「系列」を抽出し、それぞれの分布状況を整理して神獸鏡や畫像鏡の製作動向を検討している（上野 2000・2001）。また、岡村秀典氏は鏡の銘文史料にみられる同一鑄工の作品を取り上げ、その變遷が單純な同一形式内での變化ではないことを指摘する（岡村 2017）。

本稿では、これまで検討した製作痕跡・形態・紋様との對應關係を明らかにするため、b) の方法による検討を行う。

先述の通り、江村治樹氏は、春秋中期以降、青銅器の様式的變化とともに、銘文形式の變化・簡略化と「(人名)之(器名)」形式の増加、および「作器者」の「名の付け方」の變化という現象を指摘しており、その背後に商人や

¹ 生産・流通に関する研究以外に、青銅器の使用實態の解明を目的とした研究においても、考古學的特徴と銘文の雙方からアプローチを行った分析事例がある。角道亮介氏は周原・豐鎬地區と諸侯國との西周青銅器を比較検討するなかで、青銅器の用途別組成とともに、銘文を明確な基準を設けて分類し、時空間的な變遷を検討している。その結果、「器物の廣がり」と祭祀行為の廣がりとは一致せず、(中略)西周王朝と一體の政治體を構成していた地域は從來想定されていたよりも限定的であった」(角道 2013 二四五頁) という、複雑な地域間關係の實態を明らかにしている（角道 2013）。

手工業者を含めた「新興の士階層」の臺頭による社會變動の存在があったと指摘した²（江村 1988, 1989, 1991, 2000）。ただし、江村氏の研究では、青銅器銘文における「作器者」が、氏が社會變動の主體とした「新興の士階層」に對應するかについては詳細な検討はなされていない。「作器者」の位置づけを検討することで、青銅器の生産主體者、ならびに需要者層の實態を明らかにすることができるのではないかと考える。

以上のことを踏まえ、本稿では、主に「作器者」の族名や身分の變化狀況の検討を行い、その背後にある青銅器生産・發注主體の變遷の復元を目指すことを目的とする。

3. 分 析

1. 分析方法・資料

本稿では前稿（丹羽 2006）と同様、長江中流域を中心とした、現在の行政区分で言う湖北省・湖南省・安徽省・河南省南部から出土した青銅容器³のうち「作器者」銘を有するものを対象とする。「作器者」銘については、「(人名)

² 江村氏は別稿で、春秋時代の盟誓を社會秩序形成や人的結合形成の手段として位置付け、『春秋』と『左傳』に見られる盟誓の事例を集成した。その結果、春秋時代中期（B. C. 649～550 年）以降、鄭・衛といった地域でいち早く「國人」と呼ばれる人々が参加する盟誓が出現することから、これらの地域における早い段階からの國人層の勢力増大化を想定した。さらに氏は、こうした地域と春秋時代中期に青銅器の變化が先行して起こる地域とがかなりの部分で重なることから、この時期の社會變動の主體として國人層を捉えるべきとした（江村 2001）。しかし、江村氏自身が「青銅禮器から見た春秋時代の社會變動」（江村 1988）で指摘した「青銅器の變化が先行して起こる地域」とは、河南省南部から湖北省北部にかけての南陽盆地を中心とした漢水流域のことであり、江村氏の地域区分の B1 地域を指す。これに對して、鄭・衛といった地域は、A1 地域に相當し、「國人参加の盟誓が先行して見られる地域」と「青銅器の變化が先行して起こる地域」とは、重ならないと見るべきであろう。ただし、『史記』楚世家に、先王を謀殺した平王（平勢年表（平勢 1995）では在位年は B. C. 529～516 年）が、「國人及び諸侯の之に叛かれんことを恐れ」、恩恵を施す記事が見られるように、江村氏の B2 地域（南方地域）においても、春秋時代後期に國人層の勢力の増大化が生じた可能性がある。こうした人々のあり方と青銅器の動態、さらに春秋戰國時代の「社會變動」の關連については、青銅器とともに、文獻史料、出土文字史料を對比して検討する必要があるだろう。

³ 今回は紙幅の關係上、出土地點の判明している青銅容器に限定して分析を行う。樂器や武器、ならびにコレクション資料の青銅器にも多くの銘文が知られているが、それらの分析については今後の課題としたい。

作（器名）」や「（人名）之（器名）」といった銘文形式における「人名」を「作者（所有者）」として抽出する。銘文の釋讀は基本的に各報告に従うが、異説がある場合は必要に応じて併記する。

なお前稿を踏襲し、便宜的な地域概念として、これらの地域をまとめて華中地域と呼び、地理的状況および青銅器の分布状況から、漢水流域・隨棗地域・淮河流域・皖南地域・鄂東地域・江漢地域・湘北地域・湘南地域という8つの小地域に区分する⁴。

分析手順としては、筆者の青銅器編年⁵に基づき、青銅容器の銘文の「作者」銘の時間・空間的位置付けの検討を行う⁶。筆者が以前行った華中地域出土青銅器編年の概略を述べる。

第1期	B. C. 770 年前後～8 世紀後半	春秋前期
第2期	B. C. 7 世紀初頭～7 世紀第3 四半期	春秋中期前段
第3期	B. C. 7 世紀第4 四半期～6 世紀半ば	春秋中期後段
第4期	B. C. 6 世紀後半～5 世紀半ば	春秋後期
第5期	B. C. 5 世紀後半	戰國前期
第6期	B. C. 4 世紀初頭～4 世紀半ば	戰國中期前段
第7期	B. C. 4 世紀後半～B. C. 221 年前後	戰國中期後段～後期

筆者の編年のうち、第3期（春秋中期後段）には新たな形式や紋様が出現するなど大きな様式的な畫期となり、江村氏が青銅器の多様な變化が起こると指摘した時期に相當する。本稿では①春秋前期～中期前段（第1・2期）、②春秋中期後段～後期（第3・4期）、③戰國期（第5・6・7期）の大きく3つの時期に分け、時期別の様相の整理を行い、青銅器の生産活動の實態解明を試みる。當然ながら、銘文が實態を表しているのかという點（松丸1980）や青銅器自體の移動（楊1959）という點も考慮する必要がある。

⁴ 地域区分については、前稿（丹羽2006）を参照。

⁵ 日本中國考古學會九州部會第11回例會（九州大學文學部考古學研究室、2003年6月28日）にて口頭發表。青銅器編年については別稿を準備中である。青銅器鼎の編年圖は前稿（丹羽2006・2009）を参照。

⁶ 筆者は主要器種の鼎・敦・簠・壺を対象に編年を行っているが、それ以外の器種に関しては同一墓出土品、および様式的特徴に基づき年代的位置づけを行う。

2. 銘文における「作器者」銘の變遷

華中地域出土青銅器の銘文における「作器者」銘の變遷について整理を行う。当該期の華中地域の青銅容器の「作器者」銘一覽を表1～3にまとめる。

① 春秋前期～中期前段（第1・2期）（表1）

銘文を有する青銅器は漢水流域、隨棗地域、淮河流域を中心に出土している。漢水流域・隨棗地域の「曾」、淮河流域の「黃」・「樊」など各地域の「作器者」の族名や諸侯國名にまとまりが見られる。江漢地域や皖南地域では銘文を有した青銅器自體が少なく、明らかな地理勾配の傾向がある。

漢水流域

蔡大膳夫趯、申公彭宇、彭伯、侯氏、孟姬、陽飲生、許子□呼、許子盂、曾孟羸、幻伯佳、曾亘嫚非录、衛伯須、郕君鮮、郟伯貝懋、曾子驥、曾子寿、曾子龔、曾太保、矢叔、曾子仲護（曾子中誨）、鄧公孫無忌選

隨棗地区

□伯、郢公湯、郢公伯盭、盅、洊叔、盜叔、廓季之伯歸、廓季之伯歸、曾大保□、□之孫伯穀、盜之孫伯穀、廓季之伯歸臺、陳公子仲、曾侯仲子旂、黃朱柁、鼂乎、曾仲旂父、

淮河流域

黃君孟、黃子、黃（ほかの字不明）、奚子宿車、番叔□龠、季車宿／季宿車、□□单、曾子季兴臣、曾子季兴□、季兴臣、曾兴臣、原仲、器中𠂔、道伯□夷、□□单、樊夫人龍羸、樊君嬰、甫伯高、甫哀伯者君、子丌舌、黃孫須駘子白亞臣

皖南地域

喬夫人、襄惠子湯之□

江漢地区

徐太子伯□□、鄴伯、考叔貽父、塞公孫貽父

② 春秋中期後段～後期（第3・4期）（表2）

漢水流域に「作器者」銘を有した青銅容器が集中し、「楚」など新たな族名、諸侯國名や王族關係を表す「作器者」銘が出現する。また、江村氏が指摘した通り、「（人名）之（器名）」形式が増加し、銘文形式の變化・簡略化が見ら

れる。ただし、「作器者」銘が貴族階層と考えられるものが主體であるのは前段階と共通する。

漢水流域

陳侯之孫宋兕／陳侯之孫床兕、養子、許子□、彭公之孫無所、蔡侯申、申公之孫彭子射兕、彭子射、彭子射兕、彭射、番子、中妃衛、中妃□、宣王之孫鬬子之子東姬、楚叔之孫以鄧、上郡公、畢孫何次、楚叔之孫以鄧、楚叔之孫棚、耶叔祿、棚、□滕姬、孟滕姬、王子午、楚叔之孫鄢子棚、楚叔□孫鄢□棚、鄢子棚、蔡侯、克黃、曾太師奠、仲姬□、曾嬀嬀朱姬、蓮子孟嬀青、蓮子孟青嬀、阼夫人嬀、申王之孫叔姜、唐子中瀕、唐子中瀕兕、鄧公乘、子季羸青、上郡府、鄧尹侯、穆子穆、鄭藏公之孫余刺之疚子廬、游孫癸、叔皇之孫鯨、□子謏余

隨棗地区

連迂、邵、曾孫定、曾都尹定、馭、曾公子去疾、曾少宰黃仲酉、可、曾侯郈、曾仲姬、曾子原

淮河流域

蔡公子義、宋公縻、蔡侯申、吳王光、□夫人薈姬、童麗（鐘離）君柏、柏

江漢地区

王孫電、楚子赴、鄧子□賸叔

潁東地区

楚旃之石沱、許公買、

湘北地区

愨兕

③ 戦國期（第5・6・7期）⁷（表3）

銘文自體が減少し、鑄銘よりも刻銘が目立ち始める。また、「作器者」以外にも、所有者もしくは製作者を表したとみられる刻銘も含むが、現状では識別が難しいため、それらも併記する。

⁷ 壽縣朱家集李三孤堆出土品については『安徽壽縣朱家集出土青銅器銘文集釋』（程2009）を参考にした。

漢水流域

闇尹臧、蓮子孟升嬭、蓮子受、蓮子晷、酤祈想、大司馬

隨棗地区

曾侯乙、盛君繁

淮河流域

楚王禽前、楚王禽悍、王后六室、太后脰官、御豨、集𪔐、集脰、集既、集喬、集脞、集𪔐、王后七府、集脰太子、大右人、客豐愆、聖桓之夫人曾姬無卹、大府、巨蒼王？

湘北地区

右弔尹

4. 考 察

前節の分析結果に基づき、各時期の特徴をまとめると次のように言えるであろう。

春秋前期～中期前段（B. C. 8 世紀～7 世紀第 3 四半期ごろ）（第 1・2 期）においては、漢水流域・隨棗地域の「曾」、淮河流域の「黄」・「樊」など各地域の「作器名」の族名、諸侯國名に特徴がみられる。春秋中期後段～後期（B. C. 7 世紀第 4 四半期ごろ～5 世紀半ば）（第 3・4 期）においては、漢水流域に「作器者」銘を有した青銅容器が集中し、「楚」など新たな族名、諸侯國名や王族關係を表す「作器者」銘が出現する。戰國期（B. C. 5 世紀半ば～3 世紀）（第 5・6・7 期）においては、銘文自體が減少し、刻銘が目立ち始める。

各時期を通じて「作器者」として見られるのの多くは、「公」「侯」「伯」「子」「叔」「季」「君」という稱號を持つ人々である。また、各時期を通じ、「作器者」銘を有する青銅器は漢水流域、隨棗地区、淮河流域など華中地域の北方に集中する地理勾配の傾向も指摘することができるであろう。戰國期の楚の中心となる江漢地域においては「作器者」銘を有する青銅器はあまり出土していない。

さて青銅器の形式や紋様、製作技術に大きな變化が生じるのは春秋中期後段であるが、「作器者」銘の主體を占めるのは、前段階と同じように貴族階層

と考えられる。実際にこの時期の青銅器が多く出土した浙川一帯の下寺墓地、和尚嶺墓地、徐家嶺墓地は楚の貴族集團の墓地と考えられている (Falkenhansen 2003, ローター・フォン・ファルケンハウゼン 2006、山本 2016)。當該期の新たな青銅器を需要したのはこのような楚や周邊諸侯國の貴族階層であり、こうした人々が青銅器の生産に關與したものとみられる。

このようにみると、江村氏がこの時期の社會變動の主體と評價する商人や手工業者を含めた「新興の士階層」が、春秋中期後段以降の青銅器生産・需要へ積極的に関わっていたとは認めがたい。むしろ青銅器を用いた儀禮のなかに銘文が機能を爲さなくなり、小型墓においても青銅器の副葬風習が残存する戰國期こそ、當該地域においては「新興の士階層」に該當する人々の青銅器需要の高まり、およびこうした階層の人々が自ら青銅器を管理するあり方を見て取ることができよう⁸。ただしそれは、上位階層の青銅器文化の一部を受容するという形態であったことが理解できる。

現状において、春秋中期後段以降の青銅器の様式的變化の要因については明らかではない。しかしながら、中國全體を視野に入れた青銅器の検討とともに、銘文、文獻史料を對比的に検討することで少しでも實像に迫ることができるのではないかと考える。

5. まとめと今後の課題

本稿では、春秋戰國期の華中地域における青銅容器にみられる「作器者」銘を集成し、その時代・地域的な變遷を検討した。その結果、各時期を通じて「公」「侯」「伯」「子」「叔」「季」「君」という稱號を持つ人々が「作器者」として見られることを述べた。また、各時期を通じ、「作器者」銘を有する青銅器は漢水流域、隨棗地區、淮河流域など華中地域の北方に集中する傾向がみられることを明らかにした。江村治樹氏が春秋中期の社會變動の主體と評價する「新興の士階層」が、春秋中期後段以降の青銅器生産・需要へ

⁸ 武器の管理體制に關して、宮本一夫氏は戰國期の楚の中小型墓における武器の副葬風習の殘存から、「士」階層が直接武器を管理するあり方を想定する (宮本 1985)。

積極的に関わっていたとは認めがたく、小型墓においても青銅器の副葬風習が残存する戦国期こそ、当該地域においてはこうした人々の青銅器需要の高まりを見て取ることができよう。ただしそれは、あくまで上位階層の青銅器文化の一部を受容するという形態であった。

春秋戦国時代の青銅器生産体制・流通形態の解明のための今後の課題として、

- ・今回検討できなかった楽器・武器等も含めた銘文の「作器者」、およびそれ以外の要素の比較検討
- ・銘文史料および文献史料の記載内容と青銅器動態との比較検討
- ・華北地域など、他地域出土青銅器の編年構築、および形態・紋様・製作痕跡・銘文などの検討

などが存在する。今後も継続して検討を行いたい。

本稿は、2003年1月に九州大学大学院人文科学府に提出した修士論文の一部、および中国出土資料学会2008年度第1回例会（2008年7月12日）での報告内容（丹羽2008b）を骨子として、その後の公表資料を加えて再構成したものである。大学院時代にご指導いただいた宮本一夫先生、辻田淳一郎先生、田中良之先生（故人）、岩永省三先生、中橋孝博先生、溝口孝司先生、佐藤廉也先生、石川健先生、岡田裕之先生、および中国出土資料学会例会の席などでご教示をいただいた谷中信一先生、平勢隆郎先生、大西克也先生、小寺敦先生に御禮申し上げます。

資料収集にあたっては黄盼氏（京都府立大学）の協力を得た。本稿はJSPS科研費JP16H05946の成果の一部である。

引用・参考文献

【日本語（五十音順）】

石谷慎 2016「曾國青銅器の製作工人群とその系譜」『中国考古學』16

上野祥史 2000「神獸鏡の作鏡系譜とその盛衰」『史林』83-4

上野祥史 2001「畫像鏡の系列と製作年代」『考古學雜誌』86-2

江村治樹 1986「戦國三晉の都市の性格」『名古屋大学文学部研究論 史學』32 名古屋

- 大學文學部（のちに江村治樹 2000 所収）
- 江村治樹 1988 「青銅禮器から見た春秋時代の社會變動」『名古屋大學文學部研究論集 史學』34 名古屋大學文學部（のちに江村治樹 2000 に所収）
- 江村治樹 1989 「春秋時代青銅器銘文の書式と用語の時代的變遷」『名古屋大學文學部研究論集 史學』35 名古屋大學文學部（のちに江村治樹 2000 に所収）
- 江村治樹 1991 「春秋時代青銅器銘文の書式と用語の時代的變遷（續）」『名古屋大學文學部研究論集 史學』37 名古屋大學文學部（のちに江村治樹 2000 に所収）
- 江村治樹 2000 『春秋戰國秦漢時代出土文字資料の研究』汲古書店
- 江村治樹 2001 「春秋時代盟誓参加者の地域的特質」『名古屋大學東洋史研究報告』25
- 岡村秀典 2017 『鏡が語る古代史』岩波書店
- 角道亮介 2014 『西周王朝とその青銅器』六一書房
- 佐藤武敏 1962 『中國古代工業史の研究』吉川弘文館
- 佐原康夫 1984 「戰國時代の府・庫について」『東洋史研究』43-1
- 下田誠 2004 「鄭韓故城出土銅兵器の基礎的考察」『學習院大學人文科學論集』13 學習院大學大學院人文科學研究科（のちに下田誠 2008 に所収）
- 下田誠 2008 『中國古代國家の形成と青銅兵器』汲古書院
- 西村俊範 1983 「中山王墓出土銅器の鑄造關係銘文」『展望アジアの考古學』吉川弘文館
- 丹羽崇史 2006 「春秋戰國時代華中地域における青銅器生産體制復元のための基礎的検討—青銅鼎の製作技術の分析から—」『中國考古學』6
- 丹羽崇史 2008a 「製作技術からみた戰國時代江漢地域出土青銅鼎—包山 2 號墓・天星觀 2 號墓・望山 1,2 號墓出土青銅鼎の検討—」『九州と東アジアの考古學 九州大學考古學研究室 50 周年記念論文集（下）』九州大學考古學研究室 50 周年記念論文集刊行會
- 丹羽崇史 2008b 「銘文からみた春秋戰國時代華中地域における青銅器生産—作器者銘の分析を中心に—」『中國出土資料學會會報』39
- 平勢隆郎 1995 『新編 史記東周年表 中國古代紀年の研究序章』東京大學出版會
- 松丸道雄 1980 「西周青銅器製作の背景—周金文研究・序章—」松丸道雄 編『西周青銅器とその國家』東京大學出版會
- 宮本一夫 1985 「七國武器考—戈・戟・矛を中心として—」『古史春秋』2
- 山本堯 2016 「浙川楚墓再考—出土青銅禮器の傳世とその意義—」『中國考古學』16
- 吉開將人 1994 「曾侯乙墓出土戈・戟の研究—戰國前期の武器生産をめぐる一試論—」『東京大學文學部考古學研究室紀要』12
- 吉開將人 1996 「先秦期における單字模鑄造法について—曾侯乙墓出土青銅器群を中心に—」『東洋文化研究所紀要』129

吉開將人 2008「中國古代における生産と流通—青銅製品を中心に—」高濱秀（編）『現代の考古學 4 生産と技術の考古學』朝倉書店

ロータール・フォン・ファルケンハウゼン（吉本道雅譯）2006『周代中國の社會考古學』京都大學學術出版會

【中國語（ピンイン順）】

程鵬萬 2009『安徽壽縣朱家集出土青銅器銘文集釋』黑龍江人民出版社

丹羽崇史（近藤晴香譯）2009「從製作技術看戰國時代江漢地區出土青銅鼎—論包山 2 號墓・天星觀 2 號墓・望山 1、2 號墓出土青銅鼎—」『三代考古』3

郝本性 1972「新鄭“鄭韓故城”發現一批戰國銅兵器」『文物』1972-10

黃盛璋 1974「試論三晉兵器的國別和年代及其相關問題」『考古學報』1974-1

李京華 1985「從戰國銅器鑄範銘文探討韓國冶鑄業管理機構與職官」『科技史文集』13
上海科學技術出版社

劉彬徽 1995『楚系青銅器研究』湖北教育出版社

楊寬 2003『中國斷代史系列 戰國史』上海人民出版社（初版は 1955）

楊樹達 1959「王子嬰次盧跋」『積微居金文說 增訂本』科學出版社

張昌平 2006「“擇其吉金” 金文辭例與楚文化因素的形成與傳播」『中原文物』2006-4

張昌平 2009『曾國青銅器研究』文物出版社

【英語】

Falkenhausen, Lothar von. 2003, The Bronzes from Xiasi and Their Owners. 北京大學考古文博學院（編）『考古學研究』5 科學出版社

表 1 第1・2期における青銅容器の「作者者」銘

番号	器種	地区	市県	出土遺跡名	原典 ID	作者者名	他の人名	出典	備考
1	甕	漢水	宜城	朱市鄧陽瓦厂		蔡大勝夫趙		考古 1989-11	不時発見
2	甕	漢水	南陽	西関煤場		底部「申公彭字」 蓋「申公彭字」		中 1982-1, 中 1992-2, 華 1999-3	不時発見
3	甕	漢水	南陽	西関煤場		底部「申公彭字」 蓋「申公彭字」		中 1982-1, 中 1992-2, 華 1999-3	不時発見。 図・写真なし。
4	壺	漢水	南陽	西関煤場		彭伯		文 1997-12, 華 1999-3	
5	簋	漢水	襄陽	蔡坡土崗		侯氏	孟姬	文 1986-4	不時発見
6	簋	漢水	谷城	下辛店		孟姬	武公	文 1986-4	
7	簋	漢水	谷城	下辛店		陽欣生		文 1986-4	蓋のみ
8	風	漢水	谷城	下辛店		陽欣生		文 1986-4	
9	鼎	漢水	谷城	邱家樓		許子□呼		文 2014-8	不時発見
10	鼎	漢水	谷城	邱家樓		許子妻		文 2014-8	不時発見
11	甕	漢水	棗陽	郭家廟 M1	M1:06	曾孟蘇副		郭家、曾国	
12	甕	漢水	棗陽	郭家廟 M1	M1:07	曾孟蘇副		郭家、曾国	
13	壺	漢水	棗陽	郭家廟 M1	M1:08	幻伯佳		郭家、曾国	西周後期?
14	壺	漢水	棗陽	郭家廟 M1	M1:09	幻伯佳		郭家、曾国	西周後期?
15	鼎	漢水	棗陽	郭家廟 M17	M17:1	曾亘姆非录		郭家、曾国	
16	鼎	漢水	棗陽	郭家廟 M17	M17:2	曾亘姆非录		郭家、曾国	
17	鼎	漢水	棗陽	郭家廟 M01	M01:01	衛伯須		郭家、曾国	不時発見
18	鼎	漢水	棗陽	郭家廟墓地曹門湾 M22	M22:6	鄧君鮮		江 2016-5	
19	鼎	漢水	棗陽	郭家廟墓地曹門湾 M22	M22:3	鄧伯貝愚		江 2016-5	
20	鼎	漢水	棗陽	郭家廟墓地曹門湾 M10	M10:1	曾子傳		江 2016-5	
21	鼎	漢水	棗陽	郭家廟墓地曹門湾 M13	M13:1	曾子考		江 2016-5	
22	鼎	漢水	棗陽	郭家廟墓地曹門湾 M43	M43:8	曾子儀		江 2016-5	
23	甕	漢水	棗陽	郭家廟墓地曹門湾 M43	M43:3	曾太保		江 2016-5	
24	甕	漢水	棗陽	郭家廟墓地曹門湾 M43	M43:4	曾太保		江 2016-5	
25	風	漢水	棗陽	郭家廟墓地曹門湾 M43	M43:4	叔叔	孟姬	江 2016-5	
26	甕	漢水	新野	小西関		曾子仲達 (曾子中壽)		文 1973-5, 曾国	
27	鼎	漢水	襄陽	王坡 M1	M1:1	鄧公孫無忌遷	王坡		
28	鼎	漢水	棗陽	熊集段宮		曾子仲達		考 1975-4, 曾国	
29	高	隨甯	隨州	義地崗 M83		□伯		江 1994-2	
30	鼎	隨甯	隨州	三里崗商店		閻公湯		考 1982-2	採集品
31	簋	隨甯	隨州	三里崗商店		閻公伯藍		考 1982-2	採集品
32	鼎	隨甯	隨州	劉家崖		盧		考 1982-2, 曾国	
33	鼎	隨甯	隨州	劉家崖		涿叔		考 1982-2, 曾国	
34	壺	隨甯	隨州	劉家崖		益叔		考 1982-2, 曾国	
35	壺	隨甯	隨州	劉家崖		益叔		考 1982-2, 曾国	
36	鼎	隨甯	隨州	周家崗		庠季之伯錫		考 1984-6, 曾国	不時発見
37	鼎	隨甯	隨州	周家崗		庠季之伯錫		考 1984-6, 曾国	不時発見
38	簋	隨甯	隨州	周家崗		曾大保□		考 1984-6, 曾国	不時発見
39	簋	隨甯	隨州	周家崗		曾大保□		考 1984-6, 曾国	不時発見
40	高	隨甯	隨州	周家崗		□之孫伯穀		考 1984-6, 曾国	不時発見
41	高	隨甯	隨州	周家崗		□之孫伯穀		考 1984-6, 曾国	不時発見
42	盤	隨甯	隨州	周家崗		庠季之伯錫		考 1984-6, 曾国	不時発見
43	甕	隨甯	隨州	季氏梁		陳公子仲		文 1980-1, 曾国	不時発見。 同出の鼎・甕は 3・4期。
44	鼎	隨甯	京山	蘇家壩	窃曲紋鼎 1号鼎	曾侯仲子啓		文 1972-2, 曾国	
45	鼎	隨甯	京山	蘇家壩	窃曲紋鼎 3号鼎	曾侯仲子啓		文 1972-2, 曾国	
46	高	隨甯	京山	蘇家壩	重環紋高 1号	黄朱杞		文 1972-2, 曾国	
47	高	隨甯	京山	蘇家壩	重環紋高 2号	黄朱杞		文 1972-2, 曾国	
48	簋	隨甯	京山	蘇家壩	瓦紋簋 1号	鼫乎		文 1972-2, 曾国	
49	簋	隨甯	京山	蘇家壩	瓦紋簋 2号	鼫乎		文 1972-2, 曾国	
50	豆	隨甯	京山	蘇家壩		曾仲防父		文 1972-2, 曾国	
51	豆	隨甯	京山	蘇家壩		曾仲防父		文 1972-2, 曾国	
52	壺	隨甯	京山	蘇家壩		曾仲防父		文 1972-2, 曾国	
53	壺	隨甯	京山	蘇家壩		曾仲防父		文 1972-2, 曾国	
54	鼎	淮河	光山	宝相寺 G1	G1:A1	黄君孟		考古 1984-4	
55	鼎	淮河	光山	宝相寺 G1	G1:A2	黄君孟		考古 1984-4	図・写真なし
56	豆	淮河	光山	宝相寺 G1	G1:A3	黄君孟		考古 1984-4	
57	鬲	淮河	光山	宝相寺 G1	G1:A4	黄君孟		考古 1984-4	図・写真なし
58	壺	淮河	光山	宝相寺 G1	G1:A5	黄君孟		考古 1984-4	
59	壺	淮河	光山	宝相寺 G1	G1:A6	黄君孟		考古 1984-4	図・写真なし
60	鬲	淮河	光山	宝相寺 G1	G1:A7	黄君孟		考古 1984-4	
61	鬲	淮河	光山	宝相寺 G1	G1:A8	黄君孟		考古 1984-4	
62	盤	淮河	光山	宝相寺 G1	G1:A9	黄君孟		考古 1984-4	
63	風	淮河	光山	宝相寺 G1	G1:A10	黄君孟		考古 1984-4	

表1 第1・2期における青銅容器の「作器者」銘（つづき）

番号	器種	地区	市県	出土遺跡名	原典ID	作器者名	他の人名	出典	備考
64	罍	淮河	光山	宝相寺 G2	G2: A1	黄子	黄甫人孟姬	考古 1984-4	
65	罍	淮河	光山	宝相寺 G2	G2: A2	黄子	黄甫人	考古 1984-4	
66	豆	淮河	光山	宝相寺 G2	G2: A8	黄子	黄甫人	考古 1984-4	
67	豆	淮河	光山	宝相寺 G2	G2: A9	黄子	黄甫人	考古 1984-4	図・写真なし
68	壺	淮河	光山	宝相寺 G2	G2: A14	黄子	黄甫人	考古 1984-4	
69	壺	淮河	光山	宝相寺 G2	G2: A15	黄子	黄甫人	考古 1984-4	図・写真なし
70	觚	淮河	光山	宝相寺 G2	G2: A10	黄子	黄甫人孟姬	考古 1984-4	
71	觚	淮河	光山	宝相寺 G2	G2: A11	黄子	黄甫人孟姬	考古 1984-4	図・写真なし
72	盃	淮河	光山	宝相寺 G2	G2: A6	黄子	黄甫人	考古 1984-4	
73	高	淮河	光山	宝相寺 G2	G2: A4	黄子	黄甫人	考古 1984-4	
74	高	淮河	光山	宝相寺 G2	G2: A5	黄子	黄甫人孟姬	考古 1984-4	
75	盃	淮河	光山	宝相寺 G2	G2: A12	黄子	黄甫人	考古 1984-4	
76	甗	淮河	光山	宝相寺 G2	G2: A13	黄（ほかの字不明）		考古 1984-4	
77	小銅鑪	淮河	光山	宝相寺 G2: A3		黄子	黄孟姬	考古 1984-4	
78	方座	淮河	光山	宝相寺 G2: A16		黄子	黄甫人孟姬	考古 1984-4	
79	罍	淮河	羅山	高店		樊子宿車		中 1981-4	
80	壺	淮河	信陽	平西 M5		番叔□□		考 1989-1	
81	壺	淮河	羅山	高店		季車宿／季宿車		中 1981-4	
82	甗	淮河	羅山	高店		□□單		文 1980-1	
83	盤	淮河	羅山	高店		□□單		文 1980-1	
84	簠	淮河	羅山	高店	董甲	曾子季夷臣		曾国	
85	簠	淮河	羅山	高店	董乙	曾子季夷臣		曾国	
86	盤	淮河	羅山	高店		季夷臣		曾国	
87	甗	淮河	羅山	高店		曾夷臣		曾国	
88	簠	淮河	商水	朱集村	董 1	原仲	淪仲錫嫁	考 1989-4	
89	簠	淮河	商水	朱集村	I 式簠	器中胤		考 1989-4	
90	甗	淮河	確山	竹溝鎮		遺伯□夷		中 1992-2	
91	高	淮河	確山	竹溝鎮		□□□□		中 1992-2	銘文の図版なし
92	甗	淮河	羅山	高店		□□單		文 1980-1	
93	盤	淮河	羅山	高店		□□單		文 1980-1	
94	壺	淮河	信陽	平橋 M1	M1: 5	樊夫人龍鳳		文 1981-1	
95	高	淮河	信陽	平橋 M1	M1: 8	樊夫人龍鳳		文 1981-1	
96	盆	淮河	信陽	平橋 M1	M1: 10	樊君嬰		文 1981-1	
97	盤	淮河	信陽	平橋 M1	M1: 14	樊夫人龍鳳		文 1981-1	
98	甗	淮河	信陽	平橋 M1	M1: 13	樊夫人龍鳳		文 1981-1	
99	甗	淮河	信陽	甘岸		甬伯高		文 1980-1	不時発見
100	罍	淮河	信陽	楊河	冊 I	甬哀伯者君		文 1980-1	不時発見
101	罍	淮河	信陽	楊河	冊 II	甬哀伯者君		文 1980-1	不時発見
102	盤	淮河	信陽	楊河		甬哀伯者君		文 1980-1	不時発見
103	甗	淮河	信陽	楊河		甬哀伯者君		文 1980-1	不時発見
104	盆	淮河	潢川	上油崗公社磨盤山		子丁吉	行季子	文 1980-1	不時発見
105	觚	淮河	潢川	上油崗公社磨盤山		黄孫須臾子白車臣		文 1980-1	不時発見
106	罍	皖南	合肥	四里河		喬夫人		江淮 73	
107	罍	皖南	六安	九里溝鄉窯厂		襄惠子湯之□		江淮 94、皖西	
108	罍	江漢	枝江	閭廟山		徐太子伯□□	其好妻□□□	江 1991-1	不時発見
109	簠	江漢	南州	岳山		壽伯	其元妹叔鳳	文 1982-10	
110	簠	江漢	枝江	百里洲		考叔諱父		文 1972-3	不時発見
111	簠	江漢	枝江	百里洲		考叔諱父		文 1972-3	不時発見。図・写真なし。
112	甗	江漢	枝江	百里洲		塞公孫諱父		文 1972-3	不時発見

表2 第3・4期における青銅容器の「作器者」銘

番号	器種	地区	市県	出土遺跡名	原典ID	作器者名	他の人名	出典	備考
113	罍	漢水	栗垌	旧垌郷		陳侯之孫宋見 陳侯之孫宋見		中 2012-5、中 2015-3	不時発見
114	罍	漢水	南陽	八一路中原技校工地 M6		養子		中 2006-5	
115	敦	漢水	南陽	八一路中原機械工業学校 工地 M6		許子□		中 2006-5	
116	簠	漢水	南陽	八一路物資城工地 M1		彭公之孫無所		中 2006-5	
117	簠	漢水	南陽	八一路 M44	M44: 3	蔡候申		中 2009-2	
118	簠	漢水	南陽	八一路 M44	M44: 4	蔡候申		中 2009-2	
119	罍	漢水	南陽	彭射墓	M38: 41	申公之孫彭子射兒		文 2011-3	蓋・器身に銘文
120	罍	漢水	南陽	彭射墓	M38: 43	彭子射		文 2011-3	蓋・器身に銘文
121	罍	漢水	南陽	彭射墓	M38: 58	彭子射		文 2011-3	蓋・器身に銘文
122	簠	漢水	南陽	彭射墓	M38: 45	彭子射兒		文 2011-3	蓋・器身に銘文
123	缶	漢水	南陽	彭射墓	M38: 51	彭射		文 2011-3	

表2 第3・4期における青銅容器の「作者者」銘(つづき)

番号	器種	地区	市県	出土遺跡名	原典ID	作者者名	他の人名	出典	備考
124	盤	漢水	南陽	彭射墓	M38: 52	彭子射		文 2011-3	
125	風	漢水	南陽	彭射墓	M38: 53	彭子射		文 2011-3	
126	鼎	漢水	南陽	李八廟	M1: 1	番子		文 2012-4	
127	甕	漢水	淅川	下寺 M7	M7: 9	中紀衛		下寺	
128	甕	漢水	淅川	下寺 M7	M7: 10	中紀□		下寺	
129	風	漢水	淅川	下寺 M7	M7: 1	宣王之孫繻子之子東姬		下寺	
130	鼎	漢水	淅川	下寺 M8	M8: 8	楚叔之孫以鄧		下寺	
131	甕	漢水	淅川	下寺 M8	M8: 1	上鄧公	叔闕番紀	下寺	
132	甕	漢水	淅川	下寺 M8	M8: 2	畢孫何次		下寺	
133	甕	漢水	淅川	下寺 M8	M8: 3	畢孫何次		下寺	
134	甕	漢水	淅川	下寺 M8	M8: 4	畢孫何次		下寺	
135	甕	漢水	淅川	下寺 M8	M8: 5	楚叔之孫以鄧		下寺	
136	鼎	漢水	淅川	下寺 M1	M1: 66	楚叔之孫側		下寺	器形の図・写真なし
137	鼎	漢水	淅川	下寺 M1	M1: 65	楚叔之孫側		下寺	
138	鬲	漢水	淅川	下寺 M1	M1: 42	耶叔得		下寺	
139	甕	漢水	淅川	下寺 M1	M1: 44	側		下寺	
140	甕	漢水	淅川	下寺 M1	M1: 45	側		下寺	
141	浴缶	漢水	淅川	下寺 M1	M1: 72	□姬姬		下寺	
142	浴缶	漢水	淅川	下寺 M1	M1: 60	孟姬姬		下寺	
143	缶	漢水	淅川	下寺 M1	M1: 51	側		下寺	
144	缶	漢水	淅川	下寺 M1	M1: 54	側		下寺	
145	鼎	漢水	淅川	下寺 M2	M2: 43	側		下寺	
146	鼎	漢水	淅川	下寺 M2	M2: 47	側		下寺	器形の図・写真なし
147	鼎	漢水	淅川	下寺 M2	M2: 48	側		下寺	器形の図・写真なし
148	鼎	漢水	淅川	下寺 M2	M2: 44	側		下寺	
149	鼎	漢水	淅川	下寺 M2	M2: 56	楚叔之孫側		下寺	
150	鼎	漢水	淅川	下寺 M2	M2: 38	(蓋) 側、(腹部) 王子午		下寺	腹部・蓋部の両方に銘あり
151	鼎	漢水	淅川	下寺 M2	M2: 30	(腹部) 王子午		下寺	腹部・蓋部の両方に銘あり
152	鼎	漢水	淅川	下寺 M2	M2: 32	(腹部) 王子午		下寺	腹部・蓋部の両方に銘あり
153	鼎	漢水	淅川	下寺 M2	M2: 28	(蓋) 側、(腹部) 王子午	令尹子庚	下寺	腹部・蓋部の両方に銘あり
154	鼎	漢水	淅川	下寺 M2	M2: 34	(蓋) 側、(腹部) 王子午		下寺	腹部・蓋部の両方に銘あり、 器形の図・写真なし
155	鼎	漢水	淅川	下寺 M2	M2: 40	(蓋) 側、(腹部) 王子午		下寺	腹部・蓋部の両方に銘あり、 器形の図・写真なし
156	簋	漢水	淅川	下寺 M2	M2: 63	楚叔□孫□□側		下寺	
157	浴缶	漢水	淅川	下寺 M2	M2: 51	楚叔之孫□□子側		下寺	
158	浴缶	漢水	淅川	下寺 M2	M2: 55	楚叔之孫□□子側		下寺	
159	缶	漢水	淅川	下寺 M2	M2: 60	□□子側		下寺	
160	缶	漢水	淅川	下寺 M2	M2: 61	□□子側		下寺	蓋のみ写真あり
161	盤	漢水	淅川	下寺 M2	M2: 52	側		下寺	
162	風	漢水	淅川	下寺 M2	M2: 53	側		下寺	
163	鼎	漢水	淅川	下寺 M3	M3: 12	側		下寺	腹部・蓋部の両方に銘あり
164	鼎	漢水	淅川	下寺 M3	M3: 4	楚叔之孫側		下寺	腹部・蓋部の両方に銘あり
165	浴缶	漢水	淅川	下寺 M3	M3: 5	側		下寺	口縁部・蓋部の両方に銘あり
166	浴缶	漢水	淅川	下寺 M3	M3: 6	側		下寺	器形の図・写真なし
167	缶	漢水	淅川	下寺 M3	M3: 20	側		下寺	
168	盤	漢水	淅川	下寺 M3	M3: 1	蔡侯	軛鄧仲姬丹	下寺	
169	風	漢水	淅川	下寺 M3	M3: 2	蔡侯	軛鄧仲姬丹	下寺	
170	鼎	漢水	淅川	和尚嶺 M1	M1: 2	克賞		和徐	
171	鼎	漢水	淅川	和尚嶺 M1	M1: 3	克賞		和徐	
172	鼎	漢水	淅川	和尚嶺 M1	M1: 5	曾太師獎		和徐、曾國	
173	敦	漢水	淅川	和尚嶺 M2	M2: 28	仲姬□		和徐	
174	甕	漢水	淅川	徐家嶺 M9	M9: 15	曾姬卣朱姬		和徐、曾國	
175	甕	漢水	淅川	徐家嶺 M1	M1: 8	(蓋) 童子孟簋青 (器内) 童子孟青姬		和徐	蓋と器内部の2カ所に同一銘
176	鼎	漢水	淅川	和尚嶺 M11	M11: 11	陸夫人姬		中 2009-3	
177	甕	漢水	郢陽	冢家河	XM: 5	申王之孫叔姜		考 1998-4	蓋と器内部の2カ所に同一銘
178	壺	漢水	郢陽	冢家河 M1	M1: 2	唐子中胤		江 2003-1	
179	盤	漢水	郢陽	冢家河 M1	M1: 4	唐子中胤見		江 2003-1	
180	風	漢水	郢陽	冢家河 M1	M1: 5	唐子中胤見		江 2003-1	
181	鼎	漢水	襄陽	山湾	採 3	鄧公乘		江 1983-1	
182	甕	漢水	襄陽	山湾 M33	M33: 4	子季戴青		江 1983-2、 江 1990-4	
183	甕	漢水	襄陽	山湾	採: 21	上鄧府		江 1983-1	
184	鼎	漢水	襄陽	山湾	三号鼎	鄧尹侯		江 1988-3	採集品?
185	簠	漢水	襄陽	徐庄村		季子季		江 1993-3	不時発見
186	鼎	漢水	襄陽	团山 M1	M1: 1	鄭藏公之孫余制之戠子盧		考 1991-9	

表2 第3・4期における青銅容器の「作器者」銘(つづき)

番号	器種	地区	市県	出土遺跡名	原典ID	作器者名	他の人名	出典	備考
187	鼎	漢水	襄陽	余崗	M237:2	游孫突		余崗	
188	敦	漢水	襄陽	余崗	M227:2	叔皇之孫鯨		余崗	
189	鼎	漢水	襄陽	沈崗 M1022	M1022:1	□子祺余		文 2013-7	
190	鼎	隨夷	隨州	劉家崖		連迂		考 1982-2、曾國	採集品。年代は一致しない。
191	鼎	隨夷	隨州	劉家崖		連迂		曾國	採集品。年代は一致しない。
192	鼎	隨夷	隨州	劉家崖		連迂		曾國	採集品。年代は一致しない。
193	鼎	隨夷	隨州	劉家崖		連迂		曾國	採集品。年代は一致しない。
194	豆	隨夷	隨州	劉家崖		邵		江 1986-2、曾國	採集品。年代は一致しない。
195	鼎	隨夷	隨州	汪家湾		曾孫定		江 1990-1、曾國	蓋と腹内部の2カ所に同一銘
196	簠	隨夷	隨州	汪家湾		曾都尹定		江 1990-1、曾國	蓋と器内部の2カ所に同一銘
197	簠	隨夷	隨州	汪家湾		曾都尹定		江 1990-1、曾國	蓋と器内部の2カ所に同一銘
198	鼎	隨夷	隨州	義地崗		敵		曾國	不時発見。
199	簠	隨夷	隨州	義地崗		敵		曾國	不時発見。
200	鼎	隨夷	隨州	義地崗	M6:9	曾公子去疾		江 2012-3	
201	鼎	隨夷	隨州	義地崗	M6:10	曾公子去疾		江 2012-3	
202	簠	隨夷	隨州	義地崗	M6:11	曾公子去疾		江 2012-3	
203	簠	隨夷	隨州	義地崗	M6:13	曾公子去疾		江 2012-3	
204	觚	隨夷	隨州	義地崗	M6:6	曾公子去疾		江 2012-3	
205	壺	隨夷	隨州	義地崗	M6:15	曾公子去疾		江 2012-3	
206	壺	隨夷	隨州	義地崗	M6:16	曾公子去疾		江 2012-3	
207	浴缶	隨夷	隨州	義地崗	M6:5	曾公子去疾		江 2012-3	
208	斗	隨夷	隨州	義地崗	M6:4	曾公子去疾		江 2012-3	
209	鼎	隨夷	隨州	東風油庫 M1	M1:6	曾少宰黃仲西		曾國、文 2008-2	
210	觚	隨夷	隨州	東風油庫 M1	M1:3	曾少宰黃仲西		曾國、文 2008-2	
211	簠	隨夷	隨州	東風油庫 M1	M1:8	曾少宰黃仲西		曾國、文 2008-2	
212	壺	隨夷	隨州	東風油庫 M1	M1:9	曾少宰黃仲西		曾國、文 2008-2	
213	盤	隨夷	隨州	東風油庫 M1	M1:2	曾少宰黃仲西		曾國、文 2008-2	
214	匜	隨夷	隨州	東風油庫 M1	M1:1	曾少宰黃仲西		曾國、文 2008-2	
215	簠	隨夷	隨州	東風油庫 M2	M2:7	可		曾國、文 2008-2	
216	壺	隨夷	隨州	東風油庫 M2	M2:8	可		曾國、文 2008-2	
217	盤	隨夷	隨州	東風油庫 M2	M2:3	可		曾國、文 2008-2	
218	匜	隨夷	隨州	東風油庫 M2	M2:1	可		曾國、文 2008-2	
219	鼎	隨夷	隨州	東風油庫 M3	M3:19	曾仲姬		曾國、文 2008-2	蓋と器内部の2カ所に同一銘
220	壺	隨夷	隨州	東風油庫 M3	M3:20	曾仲姬		曾國、文 2008-2	
221	簠	隨夷	隨州	鱸魚嘴		曾子原	孟姬鄒	江 1980-1、曾國	
222	簠	淮河	潢川	陸古 M1		蔡公子義		文 1980-1、 文 1981-11	不時発見
223	簠	淮河	固始	侯古堆 M1	M1P:37-1	宋公壽	其妹勾散夫人 季子	侯古	
224	簠	淮河	固始	侯古堆 M1	M1P:37-2	宋公壽	其妹勾散夫人 季子	侯古	
225	鼎	淮河	寿県	蔡侯墓		蔡侯申		蔡侯	
226	鼎	淮河	寿県	蔡侯墓		蔡侯申		蔡侯	
227	鼎	淮河	寿県	蔡侯墓		蔡侯申		蔡侯	
228	簠	淮河	寿県	蔡侯墓		蔡侯申		蔡侯	
229	壺	淮河	寿県	蔡侯墓		蔡侯申		蔡侯	
230	盤	淮河	寿県	蔡侯墓		蔡侯申		蔡侯	
231	尊	淮河	寿県	蔡侯墓		蔡侯申		蔡侯	
232	鑑	淮河	寿県	蔡侯墓		呉王光		蔡侯	
233	盤	淮河	潢川	高福場 M9		□夫人曾姬		曾國	
234	簠	淮河	蚌埠	双墩 M1	M1:376	童姬(鐘離)君柏		研 16、考 2009-7、 文 2010-3、学 2013-2	
235	簠	淮河	蚌埠	双墩 M1	M1:433	柏		研 16、考 2009-7、 文 2010-3、学 2013-2	
236	簠	江漢	当陽	曹家崗 M5 附葬坑	K:3	王孫電	蔡姬	学 1988-4	
237	簠	江漢	当陽	曹家崗 M5 附葬坑	K:4	王孫電	蔡姬	学 1988-4	
238	鼎	江漢	当陽	慈化公社電一		楚子越		江 1983-1	
239	盤	江漢	鍾祥	貴土坡 M3	M3:8	鄧子仁(鄧叔)		学 2009-2	
240	鼎	鄂東	麻城	李家湾 M70	M70:3	楚熊之石沱		考 2000-5	
241	簠	鄂東	黄冈	禹王城		許公賈		考 2000-5	蓋と器内部の2カ所に同一銘
242	簠	湘北	岳陽	鳳形嘴山 M1	M1:6	應祀		文 1993-1	

表3 第5・6・7期における青銅器の「作者」銘

番号	器種	地区	市県	出土遺跡名	原典 ID	作者署名	他の人名	出典	備考
243	鼎	漢水	浙川	和尚嶺 M2	M2 : 34	閼尹𢆶		和徐	
244	鼎	漢水	浙川	徐家嶺 M3	M3 : 39	蓮子孟升𢆶		和徐	蓋と器内部の2カ所に同一銘
245	鼎	漢水	浙川	徐家嶺 M9	M9 : 9	蓮子受		和徐	
246	鼎	漢水	浙川	徐家嶺 M9	M9 : 18	蓮子受		和徐	
247	高	漢水	浙川	徐家嶺 M9	M9 : 7	蓮子受		和徐	
248	鼎	漢水	浙川	徐家嶺 M10	M10 : 50	蓮子𢆶		和徐	蓋と器内部の2カ所に同一銘
249	鼎	漢水	浙川	徐家嶺 M10	M10 : 55	蓮子𢆶		和徐	蓋と器内部の2カ所に同一銘
250	簠	漢水	浙川	徐家嶺 M10	M10 : 80	𢆶𢆶𢆶		和徐	蓋と器内部の2カ所に同一銘
251	鼎	漢水	襄陽	陳坡 M10	M10 : 97	大司馬	陳坡		刻銘
252	鼎	隨東	隨州	擂鼓墩 M1	C185	曾侯乙		曾侯	
253	鼎	隨東	隨州	擂鼓墩 M1	C96	曾侯乙		曾侯	
254	鼎	隨東	隨州	擂鼓墩 M1	C97	曾侯乙		曾侯	
255	鼎	隨東	隨州	擂鼓墩 M1	C87	曾侯乙		曾侯	器形の図・写真なし。銘文の写真なし
256	鼎	隨東	隨州	擂鼓墩 M1	C88	曾侯乙		曾侯	銘文の写真なし
257	鼎	隨東	隨州	擂鼓墩 M1	C89	曾侯乙		曾侯	銘文の写真なし
258	鼎	隨東	隨州	擂鼓墩 M1	C90	曾侯乙		曾侯	器形の図・写真なし。銘文の写真なし
259	鼎	隨東	隨州	擂鼓墩 M1	C91	曾侯乙		曾侯	器形の図・写真なし。銘文の写真なし
260	鼎	隨東	隨州	擂鼓墩 M1	C92	曾侯乙		曾侯	器形の図・写真なし。銘文の写真なし
261	鼎	隨東	隨州	擂鼓墩 M1	C93	曾侯乙		曾侯	器形の図・写真なし。銘文の写真なし
262	鼎	隨東	隨州	擂鼓墩 M1	C94	曾侯乙		曾侯	器形の図・写真なし。銘文の写真なし
263	鼎	隨東	隨州	擂鼓墩 M1	C95	曾侯乙		曾侯	器形の図・写真なし。銘文の写真なし
264	鼎	隨東	隨州	擂鼓墩 M1	C98	曾侯乙		曾侯	
265	鼎	隨東	隨州	擂鼓墩 M1	C99	曾侯乙		曾侯	器形の図・写真なし。銘文の写真なし
266	鼎	隨東	隨州	擂鼓墩 M1	C100	曾侯乙		曾侯	器形の図・写真なし。銘文の写真なし
267	鼎	隨東	隨州	擂鼓墩 M1	C101	曾侯乙		曾侯	銘文の写真なし
268	鼎	隨東	隨州	擂鼓墩 M1	C104	曾侯乙		曾侯	器形の図・写真なし。銘文の写真なし
269	鼎	隨東	隨州	擂鼓墩 M1	C103	曾侯乙		曾侯	
270	鼎	隨東	隨州	擂鼓墩 M1	C102	曾侯乙		曾侯	
271	高	隨東	隨州	擂鼓墩 M1	C156	曾侯乙		曾侯	銘文の写真なし
272	高	隨東	隨州	擂鼓墩 M1	C157	曾侯乙		曾侯	銘文の写真なし
273	高	隨東	隨州	擂鼓墩 M1	C158	曾侯乙		曾侯	器形の図・写真なし。銘文の写真なし
274	高	隨東	隨州	擂鼓墩 M1	C159	曾侯乙		曾侯	器形の図・写真なし。銘文の写真なし
275	高	隨東	隨州	擂鼓墩 M1	C160	曾侯乙		曾侯	器形の図・写真なし。銘文の写真なし
276	高	隨東	隨州	擂鼓墩 M1	C161	曾侯乙		曾侯	器形の図・写真なし。銘文の写真なし
277	高	隨東	隨州	擂鼓墩 M1	C162	曾侯乙		曾侯	器形の図・写真なし。銘文の写真なし
278	高	隨東	隨州	擂鼓墩 M1	C163	曾侯乙		曾侯	
279	高	隨東	隨州	擂鼓墩 M1	C164	曾侯乙		曾侯	銘文の写真なし
280	簠	隨東	隨州	擂鼓墩 M1	C105	曾侯乙		曾侯	器形の図・写真なし。銘文の写真なし
281	簠	隨東	隨州	擂鼓墩 M1	C106	曾侯乙		曾侯	器形の図・写真なし。銘文の写真なし
282	簠	隨東	隨州	擂鼓墩 M1	C107	曾侯乙		曾侯	器形の図・写真なし。銘文の写真なし
283	簠	隨東	隨州	擂鼓墩 M1	C108	曾侯乙		曾侯	銘文の写真なし
284	簠	隨東	隨州	擂鼓墩 M1	C109	曾侯乙		曾侯	
285	簠	隨東	隨州	擂鼓墩 M1	C110	曾侯乙		曾侯	器形の図・写真なし。銘文の写真なし
286	簠	隨東	隨州	擂鼓墩 M1	C111	曾侯乙		曾侯	器形の図・写真なし。銘文の写真なし
287	簠	隨東	隨州	擂鼓墩 M1	C112	曾侯乙		曾侯	器形の図・写真なし。銘文の写真なし
288	簠	隨東	隨州	擂鼓墩 M1	C122	曾侯乙		曾侯	器形の図・写真なし。銘文の写真なし
289	簠	隨東	隨州	擂鼓墩 M1	C123	曾侯乙		曾侯	
290	簠	隨東	隨州	擂鼓墩 M1	C124	曾侯乙		曾侯	銘文の写真なし
291	簠	隨東	隨州	擂鼓墩 M1	C125	曾侯乙		曾侯	器形の図・写真なし。銘文の写真なし
292	豆	隨東	隨州	擂鼓墩 M1	C194	曾侯乙		曾侯	
293	豆	隨東	隨州	擂鼓墩 M1	C195	曾侯乙		曾侯	
294	豆	隨東	隨州	擂鼓墩 M1	C196	曾侯乙		曾侯	
295	缶	隨東	隨州	擂鼓墩 M1	N5	曾侯乙		曾侯	
296	缶	隨東	隨州	擂鼓墩 M1	N6	曾侯乙		曾侯	器形の図・写真なし。銘文の写真なし
297	壺	隨東	隨州	擂鼓墩 M1	C132	曾侯乙		曾侯	
298	壺	隨東	隨州	擂鼓墩 M1	C133	曾侯乙		曾侯	銘文の写真なし
299	壺	隨東	隨州	擂鼓墩 M1	C182	曾侯乙		曾侯	
300	壺	隨東	隨州	擂鼓墩 M1	C184	曾侯乙		曾侯	
301	甗	隨東	隨州	擂鼓墩 M1	C141	曾侯乙		曾侯	
302	尊	隨東	隨州	擂鼓墩 M1	C38	曾侯乙		曾侯	「𢆶」等の字を消し、「乙」等の字を追刻
303	簠	隨東	隨州	擂鼓墩 M1	C39	曾侯乙		曾侯	「𢆶」等の字を消し、「乙」等の字を追刻
304	浴缶	隨東	隨州	擂鼓墩 M1	C186	曾侯乙		曾侯	銘文の写真なし
305	浴缶	隨東	隨州	擂鼓墩 M1	C187	曾侯乙		曾侯	銘文の写真なし
306	浴缶	隨東	隨州	擂鼓墩 M1	C188	曾侯乙		曾侯	器形の図・写真なし。銘文の写真なし
307	簠	隨東	隨州	擂鼓墩 M1	C189	曾侯乙		曾侯	
308	円甗	隨東	隨州	擂鼓墩 M1	C127	曾侯乙		曾侯	銘文の写真なし

表3 第5・6・7期における青銅容器の「作器者」銘（つづき）

番号	器種	地区	市県	出土遺跡名	原典 ID	作器者名	施の人名	出典	備考
309	円鑑	陸奥	随州	播磨墩 M1	C128	曾侯乙		曾侯	
310	盤	陸奥	随州	播磨墩 M1	C148	曾侯乙		曾侯	
311	匜	陸奥	随州	播磨墩 M1	C147	曾侯乙		曾侯	
312	匜	陸奥	随州	播磨墩 M1	C190	曾侯乙		曾侯	
313	円卮	陸奥	随州	播磨墩 M1	C166	曾侯乙		曾侯	
314	簠	陸奥	随州	播磨墩 M2	M2 : 49	盛君崇		文 1985-1, 播鼓	
315	鼎	淮河	淮南	朱家集李三孤堆	図 1・器図 11	楚王禽前		朱家	刻銘
316	鼎	淮河	淮南	朱家集李三孤堆	図 2・器図 13	楚王禽前		朱家	刻銘
317	簠	淮河	淮南	朱家集李三孤堆	図 3・器図 23	楚王禽前		朱家	刻銘
318	簠	淮河	淮南	朱家集李三孤堆	図 4・器図 24	楚王禽前		朱家	刻銘
319	簠	淮河	淮南	朱家集李三孤堆	図 5・器図 25	楚王禽前		朱家	刻銘
320	鼎	淮河	淮南	朱家集李三孤堆	図 7・器図 7	楚王禽悍		朱家	刻銘
321	鼎	淮河	淮南	朱家集李三孤堆	図 8・器図 8	楚王禽悍		朱家	刻銘
322	盤	淮河	淮南	朱家集李三孤堆	図 9・器図 41	楚王禽前		朱家	刻銘
323	簠	淮河	淮南	朱家集李三孤堆	図 19・器図 26	王后六室	鑄客	朱家	刻銘
324	簠	淮河	淮南	朱家集李三孤堆	図 26・器図 27	王后六室	鑄客	朱家	刻銘
325	簠	淮河	淮南	朱家集李三孤堆	図 18・器図 28	王后六室	鑄客	朱家	刻銘
326	豆	淮河	淮南	朱家集李三孤堆	図 27・器図 31	王后六室	鑄客	朱家	刻銘
327	豆	淮河	淮南	朱家集李三孤堆	図 28・器図 32	王后六室	鑄客	朱家	刻銘
328	豆	淮河	淮南	朱家集李三孤堆	図 29・器図 33	王后六室	鑄客	朱家	刻銘
329	豆	淮河	淮南	朱家集李三孤堆	図 30・器図 34	王后六室	鑄客	朱家	刻銘
330	缶	淮河	淮南	朱家集李三孤堆	図 32・器図 30	王后六室	鑄客	朱家	刻銘
331	缶	淮河	淮南	朱家集李三孤堆	図 33・器図 42	王后六室	鑄客	朱家	刻銘
332	鑑	淮河	淮南	朱家集李三孤堆	図 35・器図 47	王后六室	鑄客	朱家	刻銘
333	鑑	淮河	淮南	朱家集李三孤堆	図 36・器図 43	王后六室	鑄客	朱家	刻銘
334	鼎	淮河	淮南	朱家集李三孤堆	図 37・器図 14	太后胞官	鑄客	朱家	刻銘
335	匜	淮河	淮南	朱家集李三孤堆	図 38・器図 40	御孫	鑄客	朱家	刻銘
336	鼎	淮河	淮南	朱家集李三孤堆	図 39・器図 12	集醯	鑄客	朱家	刻銘
337	円卮	淮河	淮南	朱家集李三孤堆	図 40・器図 50	集醯	鑄客	朱家	刻銘
338	盃	淮河	淮南	朱家集李三孤堆	図 41・器図 39	集醯	鑄客	朱家	刻銘
339	鼎	淮河	淮南	朱家集李三孤堆	図 43・器図 15	集醯	鑄客	朱家	刻銘
340	鼎	淮河	淮南	朱家集李三孤堆	図 44・器図 16	集醯	鑄客	朱家	刻銘
341	鼎(蓋)	淮河	淮南	朱家集李三孤堆	図 45・器図 21	集醯	鑄客	朱家	刻銘
342	鑑	淮河	淮南	朱家集李三孤堆	図 46・器図 43	集醯	鑄客	朱家	刻銘
343	甗	淮河	淮南	朱家集李三孤堆	図 48・器図 2	集既	鑄客	朱家	刻銘
344	鼎	淮河	淮南	朱家集李三孤堆	図 49・器図 17	集醯	鑄客	朱家	刻銘
345	方卮	淮河	淮南	朱家集李三孤堆	図 50・器図 51	集醯	鑄客	朱家	刻銘
346	甗	淮河	淮南	朱家集李三孤堆	図 51・器図 1	集醯	鑄客	朱家	刻銘
347	鼎	淮河	淮南	朱家集李三孤堆	図 52・器図 20	王后七府	鑄客	朱家	刻銘
348	鼎	淮河	淮南	朱家集李三孤堆	図 54・器図 9	集醯	鑄客	朱家	刻銘
349	鼎	淮河	淮南	朱家集李三孤堆	図 56・器図 10	集醯		朱家	刻銘
350	鼎	淮河	淮南	朱家集李三孤堆	図 57・器図 18	集醯太子		朱家	刻銘
351	鑑	淮河	淮南	朱家集李三孤堆	図 60・器図 46	大右人		朱家	刻銘
352	鼎	淮河	淮南	朱家集李三孤堆	図 65・器図 19	客豊翌		朱家	刻銘
353	壺	淮河	淮南	朱家集李三孤堆	壺 1 (JW52-32)・ 図 67・器図 36	聖桓之夫人曾姬無卣		曾国, 朱家	台北故宫博物院
354	壺	淮河	淮南	朱家集李三孤堆	壺 2 (JW53-32)・ 図 68・器図 35	聖桓之夫人曾姬無卣		曾国, 朱家	台北故宫博物院
355	鑑	淮河	淮南	朱家集李三孤堆	図 69・器図 45	大府	王	朱家, 文 1980-8	刻銘
356	簠	淮河	淮南	朱家集李三孤堆	図 70・器図 29	大府		朱家	刻銘
357	敦	淮河	淮南	朱家集李三孤堆	図 71・器図 22	大府		朱家	刻銘
358	鼎	淮河	蚌埠	蚌埠市内		巨蒼王?		文 1957-7	刻銘, 不時発見。
359	壺	皖南	舒城	秦家橋 M1 : 5	M1 : 5	?		研 6	刻銘, 江淮 178 ?
360	壺	皖南	舒城	秦家橋 M1 : 6	M1 : 6	?		研 6	刻銘, 江淮 178 ?
361	壺	皖南	舒城	秦家橋 M2 : 3	M2 : 3	?		研 6	刻銘, 江淮 178 ?
362	鑑	皖南	舒城	秦家橋		?		研 6, 江淮 185	刻銘
363	鼎	湖北	桃源	三元村 M1	鼎 (2)	?		湖 4	「□十年 (?) 土命湯王册容廿五升」刻銘
364	鼎	湖北	長沙	長沙		右客尹		考 1963-9, 湖南	刻銘

文献略称

[報告書等]

蔡侯：安徽省博物館 1956『寿县蔡侯墓出土遺物』科学出版社

曾侯：湖北省博物館 1989『曾侯乙墓（上）（下）』文物出版社

下寺：河南省文物研究所・河南省丹江庫区考古発掘隊・浙川県博物館 1991『浙川下寺春秋楚墓』文物出版社

和徐：河南省文物考古研究所・南陽市文物考古研究所・浙川県博物館 2004『浙川和尚嶺与徐家嶺楚墓』大象出版社

侯古：河南省文物考古研究所 2004『固始侯古堆一号墓』大象出版社

湖南：湖南省博物館 2004『湖南省商周青銅器陳列』岳麓書社

郭家：襄樊市考古隊・湖北省文物考古研究所・湖北孝襄高速公路考古隊 2005『棗陽郭家廟曾国墓地』文物出版社

王坡：湖北省文物考古研究所・襄樊市考古隊・襄阳区文物管理处 2005『襄陽王坡東周秦漢墓』科学出版社

曾国：湖北省文物考古研究所 2007『曾国青銅器』文物出版社

擂鼓：隨州市博物館 2008『隨州擂鼓墩二号墓』文物出版社

朱家：程鵬萬 2009『安徽壽縣朱家集出土青銅器銘文集釋』黒龍江人民出版社

余崗：襄陽市文物考古研究所 2011『余崗楚墓』科学出版社

陳坡：湖北省文物考古研究所・襄陽市文物考古研究所・襄陽市襄州区文物管理处 2013『襄陽陳坡』科学出版社

皖西：皖西博物館 2013『皖西博物館文物攝珍』文物出版社

江淮：安徽大学・安徽省社会科学院・安徽省文物考古研究所 2014『安徽江淮地区商周青銅器』文物出版社

[雑誌]

考：『考古』『考古通訊』

文：『文物』『文物參考資料』

学：『考古学報』

中：『中原文物』

江：『江漢考古』

華：『華夏考古』

東：『東南文化』

湖：『湖南考古輯刊』

研：『文物研究』